

03

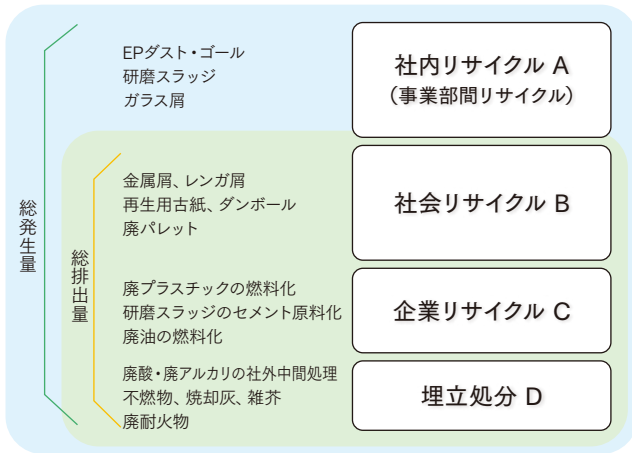
環境のビジネスプラン

1

環境のビジネスプラン (廃棄物の削減)

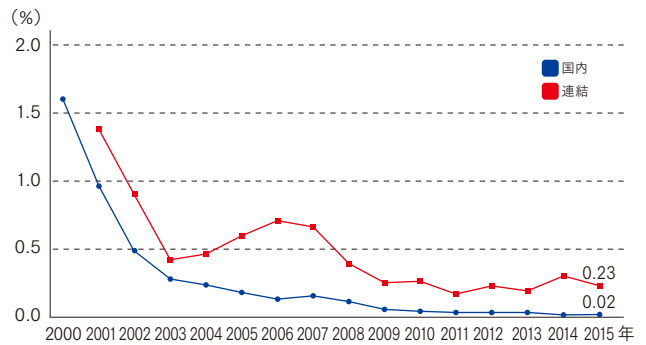
2000年に最初の環境ビジネスプランとしてスタートして以降、埋立処分量は着実に減少してきました。グラフは製品販売重量に対する「通常の工程で発生し埋立処分される固形廃棄物の比率」の推移を表したのですが、国内では2010年に0.1%以下を達成しました。最終的には埋立廃棄物ゼロを目指して削減に取り組んでいきます。海外を含めた連結では、プ

〈固形廃棄物の分類〉



ラウン管ガラスの製造を中止したため、廃ブラウン管ガラスのリサイクル使用がなくなり、埋立廃棄物が一時的に増加したことにより、2014年は原単位が悪化しました。また、2014年からは埋立処分Dに加え、社外に処理を委託している企業リサイクルCの削減を進めています。

〈販売重量に対する埋立廃棄物の削減実績〉



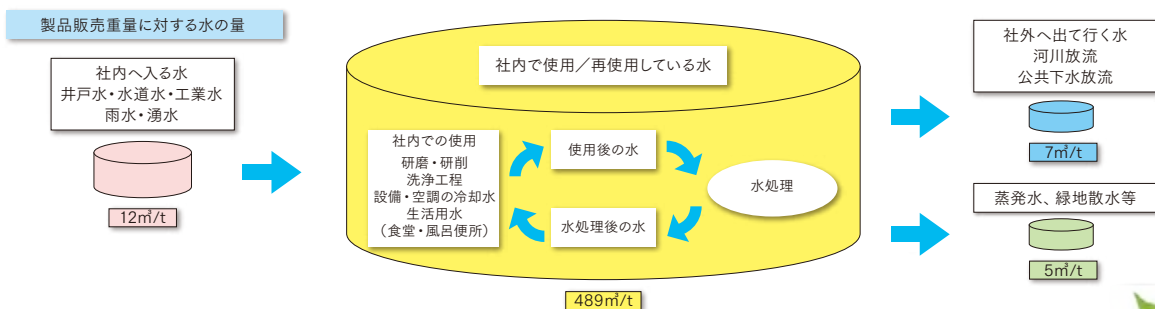
2

環境のビジネスプラン (水の削減)

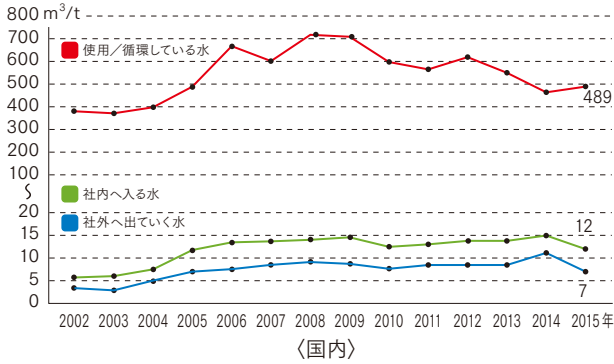
水は貴重な資源であり、モノ作りのレベルは水の使用量に表われるという考えのもと、「水」のビジネスプランをスタートさせています。

「水の削減」の目的は、ガラスの熔融、成型、加工洗浄などのあらゆる製造工程において目的に沿った水の

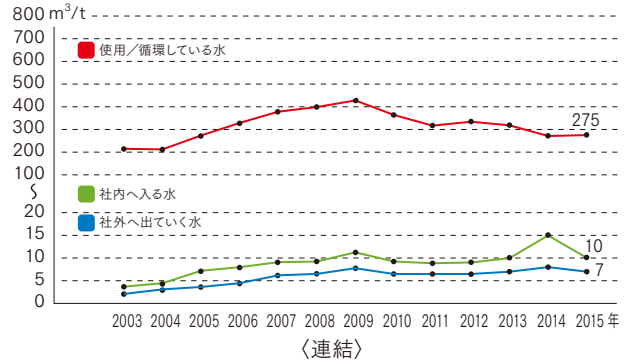
使用方法と管理方法を追及して工程改善へと繋げることです。海外工場を含めて、あらゆる工程の完成度を上げると共に水の使用量と排水量の削減に結び付けていきます。



下図は、製品販売重量に対する水の量の比率の推移を表したものです。3つの指標で表しており、それぞれ1トン



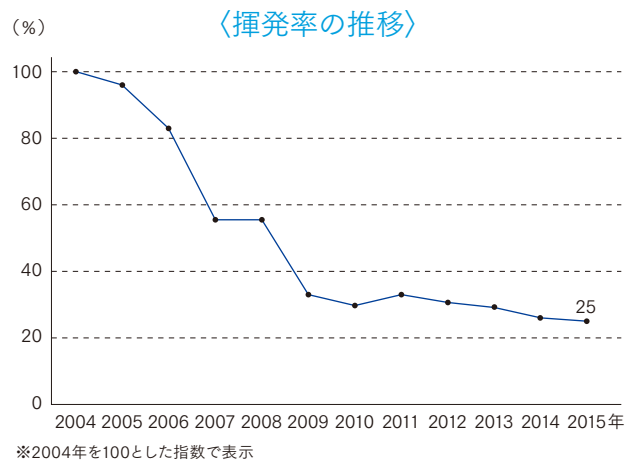
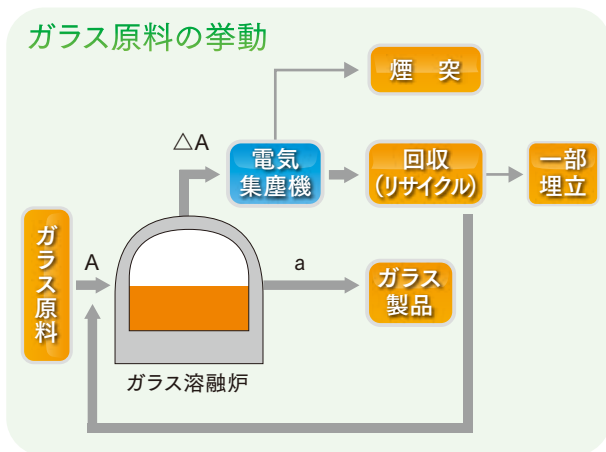
の製品を販売するのに新たに取り入れた水、工程内で使用/循環させている水、そして排水した水の量です。



3 環境のビジネスプラン (窯からの揮発量の削減)

「窯揮発量の削減」の目的は、「排ガス中に含まれるガラス原料からの揮発成分は、排ガス処理装置で捕集してリサイクルするだけでなく、溶融段階での揮発量

そのものを抑えることで減少させるべきである」とのコンセプトのもと、ガラス原料からの揮発が少ない溶融方法を追求し、環境負荷の低減に努めることです。



右上の図は、「ガラス販売重量に対するガラス溶融炉中の原料から揮発する揮発量の比率」を指標に、当社の主力事業である液晶板ガラスの比率の推移を示したものです。本ビジネスプラン開始前の2004年

に比べて徐々に揮発率は低下し、2015年には揮発率を開始前の1/4にまで低減することができました。今後もガラス溶融炉からの揮発を低減するために様々な工夫を行っていく予定です。